

事例 16 大型排水管を用いたシカ捕獲個体の減容化处理

(近畿中国森林管理局 三重森林管理署)



- 三重県^{たき}多気郡^{おおだいちょう}大台町 ^{おおすぎだに}大杉谷国有林
- (左) 現地検討会の様子(令和7(2025)年10月)
(右) 大型排水管内の様子(令和7(2025)年10月)

ニホンジカによる森林被害を防止するためには、捕獲による個体数管理が重要です。捕獲個体は、ジビエ等に利用しない場合は、焼却施設等に持ち込むか埋設処理を行う必要があります、捕獲者の負担が大きいという課題があります。

このような状況を踏まえて、三重森林管理署では、埋設処理の効率化に向け、林道脇などに縦置きで埋設した大型排水管（直径1 m、長さ4 m）に捕獲個体と発酵促進剤（ぼかし剤）を投入し、自然分解により減容化する埋設処理の実証・普及に取り組んでいます。

この方法は、残渣の減容化により、処理できる個体数も多く、捕獲個体の投入作業も容易なため、従来の埋設処理と比べて作業負担やコストを軽減することができます。

令和7(2025)年10月には、減容化处理の普及に向けて、県・市町職員等の林務・鳥獣害対策担当者など25名を対象とした現地検討会を開催し、参加者からは「臭いを懸念していたが、ぼかし剤により悪臭が軽減することが実際に確認できてよかった」などの声が寄せられました。

今後はこの処理方法の減容状況について調査を行いつつ、積極的に情報発信を行い、民有林などの地域関係者への普及に取り組んでいきます。